

パプリカの早熟栽培に適した優良品種					
[要約] <u>パプリカの早熟栽培</u> において、 <u>赤色系品種</u> としては、「スピリット」および「スペシャル」が優れ、「スピリット」は総収量および着果数が多く、「スペシャル」は不良果の発生が少ない。 <u>黄色系品種</u> では、「フィエスタ」が総収量および着果数が多く、不良果の発生も少なく優れている。					
担当部署	野菜栽培部・野菜栽培チーム			連絡先	092-922-4364
対象作目	野菜	専門項目	品種選定	成果分類	品種選定

[背景・ねらい]

最近、食の多様化に伴いサラダ等の彩り野菜として赤色や黄色系パプリカの需要が増加している。パプリカは主にオランダや韓国から輸入されているが、国内産の供給が強く求められている。

そこで、パプリカの中で市場性の高い赤色系および黄色系品種について、収益性の高い水田転換作物として本県の平坦地水田に導入するために、早熟栽培に適して多収で障害果の発生が少ない品種を選定する。

[成果の内容・特徴]

1. 赤色系品種としては、「スピリット」および「スペシャル」が商品果率が高く優れている。「スピリット」は総収量および着果数ともに最も多い。一方、「スペシャル」は凹凸果およびひび果等障害果の発生が少ない(表1)。
2. 「スピリット」および「スペシャル」の時期別商品果重は、7月に最も多く、8月に最も少なくなり、その後やや多くなる。また、1果重は、7月に最も重く、9月にかけて減少し、その後やや増加する(図1)。
3. 黄色系品種としては、「フィエスタ」が総収量および着果数ともに最も多く、凹凸果およびひび果等障害果の発生も少なく優れている(表1)。
4. 「フィエスタ」の時期別商品果重は、7月に最も多く8月に減少した後、9月で多くなるが、その後減少する。また、1果重は、7月に最も重く、その後は同等で推移する(図2)。

[成果の活用面・留意点]

1. 赤色系品種は、黄色系品種に比べて夏季にす入り果および尻腐果の発生が多いため、クールホワイト(遮光率45%)等で遮光を行うとともに、かん水管理に気をつける。
2. 10月中旬以降、昼夜の温度格差が大きくなると果実が結露し、ひび果が発生するため、早朝に短時間の換気を行い結露の発生を防止する。

[具体的データ]

表 1 収量および品質の品種間差異(平成14年)

果色	品種	総収量 (kg/a)	商品果重 (kg/a)	着果数 (個/株)	1果重 (g)	不良果発生割合			
						凹凸	ひび	す入	尻腐
赤	スピリット	1071	913	27.9	145	20	4	3	5
	スペシャル	920	790	24.2	134	17	1	4	5
	スーザン	780	657	21.2	142	21	4	9	8
	パプリット	697	414	13.9	160	42	7	8	14
黄	フィエスタ	1051	946	33.2	121	17	3	1	1
	三光	1042	894	26.9	147	30	4	0	5
	オロベル	947	742	23.8	143	40	15	0	4
	パプリット	927	864	22.0	154	34	7	0	1

注)1. 定植日：4月3日、収穫期間：6月下旬～11月末

2. 栽植様式：畝幅120cm、株間30cm、1条植え、V字2本仕立て(278株/a)

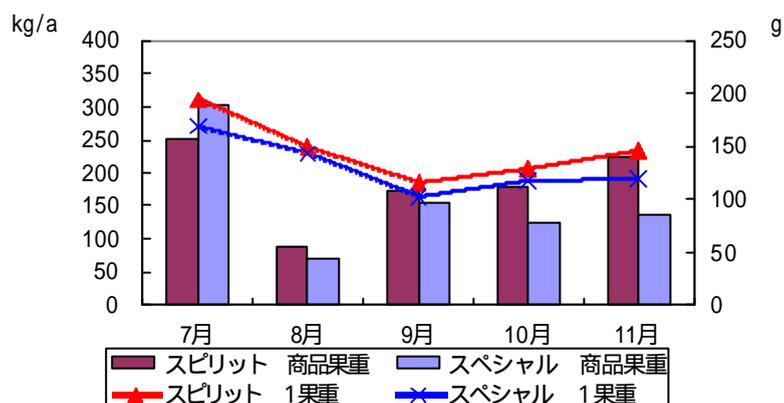


図 1 「スピリット」および「スペシャル」の時期別商品果重および1果重(平成14年)

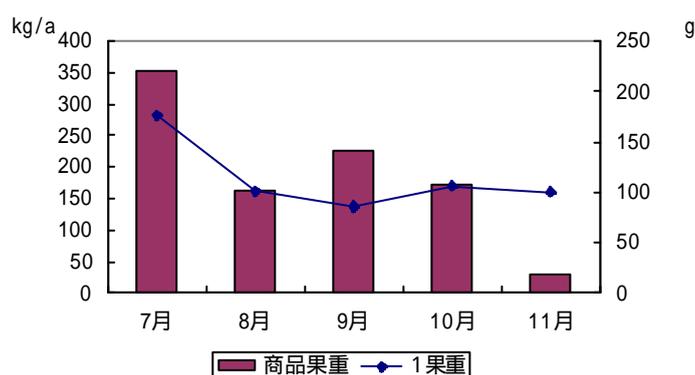


図 2 「フィエスタ」の時期別商品果重および1果重(平成14年)

[その他]

研究課題名：早熟栽培におけるパプリカの優良品種選定

予算区分：国庫助成(新技術地域実用化)

研究期間：平成14年度(平成13、14年)

研究担当者：古賀武、柴戸靖志、井上恵子、林田達也